はじめに

2020 年は、学校現場もこれまでに経験したことのないことの連続でした。この山口県国際教育研究会にとってもその影響は大きく、例年 6 月に行っていた帰国報告会や総会、8 月に本県で開催予定だった夏季研究大会中国大会もコロナ禍の中、実施することがかないませんでした。

そうした中、今年度から私が前任の辻本会長からバトンを受け継ぎ、本会の会長を拝命しました。本来なら総会や夏の研究大会の場で皆様方にお知らせすべきところでしたが、この状況下でご報告が遅れましたことをお詫び申し上げます。辻本前会長の本会における貢献は大きく、私はその活躍を見守ってきただけの存在であり、どこまでお役に立てるかはなはだ不安ではありますが、これまでの諸先輩が築いてこられた本会の歴史を汚すことがないよう努力したいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

さて前述のように今年度は、会としての活動をほとんど行うことができず、この研究紀要の発行も迷う状況でした。そうした中、6 月に総会の代行として臨時役員会を行い、本会活動の足跡をなんとか残したいという思いのもと、3 密を避けてできる活動としてこの研究紀要の発行とその活動を支えるための活動費として最低限の会費の徴収（例年会費 3000 円のところ今年度 1000 円）を決定しました。こうした経緯により作成した研究紀要ですから、例年のように夏季研究大会の報告や帰国報告会の内容を掲載することもできません。そのため会員の方々にお願いし、現在取り組まれている研究実践であったり、日本人学校に派遣されていた当時の随想だったりと、これまでの研究紀要とは内容も多岐にわたり、色合いの異なるものになっていると思いますが、なんとか発行にこぎ着けた今年度の活動の証です。

また、新型コロナウイルス感染症の収束も未だ見通せない中ではありますが、令和 3 年度は昨年開催できなかった夏季研究大会中国大会を、今年こそは山口県で行えるようすでに準備を始めています。あわせて、帰国報告会や総会もこれまで通り実施できるよう計画中です。

不透明感が漂う令和 3 年度ではありますが、本会活動の足がかりになればという思いも込め作成した研究紀要でもあります。是非ご一読のうえ、山口県国際教育研究会の存在を周りの方々にご紹介いただくとともに、次年度の本会活動がより多くの参加者を集め充実した内容となるようご協力ください。

山口県国際教育研究会
会長　　藤井　智寛
（下関市立江浦小学校　校長）